

ふるさと財団「地域再生マネージャー」情報

1. 基本情報						
組織名・所属		北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院				
役職		准教授				
氏名		石黒 侑介	ふりがな	いしぐろ ゆうすけ	生年	1982年
連絡先	住所	〒060-0817 北海道札幌市北区北17条西8丁目北海道大学情報教育館2F				
	電話	011-706-5115	携帯電話		メールアドレス	ishiguro■imc.hokudai.ac.jp(■を@に変えて下さい)
2. 経歴・取組内容、取組分野等						
主な経歴・受賞歴	<p><経歴> 東京都出身 メキシコ・イベロアメリカナ大学国際関係学部留学を経て、横浜国立大学国際社会科学部国際関係法専攻開発協カコース修了(修士・国際経済法学) ◆2008年 財団法人日本交通公社(現・公益財団法人日本交通公社) 入社(主にグリーン・ツーリズムやスポーツ合宿誘致を通じた地域振興、インバウンド・ツーリズム推進に関する中央官庁、地方自治体の調査事業・研究、観光分野の国際協力案件に従事) ◆2014年 北海道大学観光学高等研究センター 特任准教授 ◆2016年 北海道大学観光学高等研究センター 准教授 ◆2017年 スペイン・バルセロナ大学ホテル観光学院連携客員教授を兼務</p>					
	<p><主な取組内容> ◆主な公職 2015年 北海道開発局「北海道産食の魅力発信に関するアドバイザー会議」座長 白老町「アイヌ文化を基軸としたインバウンド向け滞在型観光の新規開発事業」座長 公益財団法人はまなす財団「地域の持続的発展を牽引する新たな観光協会のあり方に関する研究会」座長 2016年 札幌市ICT活用プラットフォーム検討会スポーツ・観光ICT推進部会」副座長 2017年 一般社団法人丘のまちびえい活性化協会(日本版DMO法人)アドバイザー 2018年 北海道運輸局「大規模地震等に備えた外国人観光客への情報集約・提供方法に関する実証事業に係る検討会」座長 一般財団法人八重山ビジュアルビューロー(日本版DMO法人)有識者会議委員 独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構「新駅及び周辺整備のインバウンド等対応に関する検討協議会」有識者委員 2019年 文化庁「先端技術を活用した日本文化の魅力発信事業審査会」委員 札幌市「観光振興に係る新たな財源に関する調査検討会議」副委員長 ◆主な受託研究 2014年-2017年 美瑛町観光マスタープラン策定に関する調査研究 2016年-2019年 池田町観光振興計画策定事業</p>					
取組分野	◎	1	観光振興		7	住民参加・協働
		2	産業振興		8	イベント交流
	○	3	過疎地域・限界集落の振興		9	食品流通
	○	4	中心市街地活性化		10	環境
		5	まちづくり景観		11	NPO・ボランティア
		6	農林水産品の開発・ブランド化		12	その他(起業支援、人材育成)

3. 関連ホームページ	
名称	アドレス
北海道大学大学院国際広報メディア・観光	https://www.imc.hokudai.ac.jp
石黒侑介オフィシャルweb	https://www.ishiguroyusuke.com
4. ふるさと財団での実績	
外 活 部 用 専 助 門 成 家	◆2010年度～11年度 新潟県胎内市「米粉を軸とした地域食材の活用による商品開発事業」
外 部 短 期 専 門 診 家 断 派 遣	
地 域 ミ ナ 生 !	
そ の ほ か	
5. 財団報告書	
名称	アドレス
平成23年度 新・地域再生マネージャー事業	http://www.furusato-zaidan.or.jp/3-H23-shinchiikisaiseiM-houkokusho.pdf
平成22年度 地域共創ビジネス支援事業	http://www.furusato-zaidan.or.jp/chiiki/pdf5/1321407101251.pdf
6. 写真・ひとことPR	
	<p><ひとことPR></p> <p>観光政策や観光組織をテーマに、行政組織や観光協会、DMOの皆様との共同研究、実践研究を積極的に行っています。特に観光地経営論(デスティネーション・マネジメント)における政策立案や財源・組織の構築などが専門で、現在は道内の自治体に加え、沖縄県の八重山諸島(石垣市、竹富町、与那国町)のDMO、スペイン・バルセロナ市政府、エクアドル・キト市のDMOなど、国内外の多くの行政組織、DMOとの連携研究を通じて、効果的なデスティネーション・マネジメントのあり方についての研究を進めています。観光学の学術的な理論が地域のみなさんに直接的に役に立つことは少ないかもしれませんが、一方で「たかが理論、されど理論」です。理論を踏まえて他の地域やご自身の地域を分析すると、課題の構造やその解決策を見いだすヒントは見えるかもしれません。まずは「地域の課題は何なのか」について議論するところから始めましょう。</p>